

活動終了報告書（要約）

採択年度	2025 年度
コード番号	24—A-042

団 体 名	日本ウクライナ文化協会	申請額
		1000000 円
		助成額(受領額)
事 業 名	子供の交流キャンプ	300000 円
		事業地(国名)
		日本

組 織 及 び 事 業 概 要

組織概要〈創立年、趣旨、主な活動等〉 * 300 字以内

名称 特定非営利活動法人日本ウクライナ文化協会

本法人は日本、ウクライナ両国民に対して、文化・科学・教育の分野に関する事業を行い、両国民の相互理解に係る問題の改善や解決を図り、両国の友情を築くことの増進に寄与することを目的とする。

<https://jp-ua.org>

・ イースター祭事業

事業内容: ウクライナ文化に興味がある日本市民やウクライナイースター祭の伝統や歌や特産品などを紹介する事業。

・ ワールド・フード・フェスタに参加。

事業内容: 日本の国民にウクライナの文化を紹介する事業。

・ ウクライナスクール “ベレヒーニャ”

事業内容: ウクライナ人の子供と大人、そしてウクライナ語、ウクライナの文化に興味がある方は、どなたでも対象になります事業です。

・ 「集いの場」、2 ヶ月に 1 回、第 3 土曜日。

事業内容: ウクライナ避難民の集まり。

・ ウクライナ避難民の為にヨガ、月に 1 回 行う実施。

事業内容: 名古屋市久屋大通公園

「毎月 10 日開催」 Hisaya market

事業内容: 名古屋市久屋大通公園で避難民の手作りの作品を販売するイベント。

・ ウクライナに平和をデモ事業

事業内容: 戦争反対、ウクライナに平和をデモ、一般市民を対象に行動です。

・ 子供のキャンプ。

事業内容: ウクライナ人の子供と大人対象になります事業です。

・ 「ウクライナ展示会」8 月 24 日、ウクライナ独立記念日に捧げてイベント。

事業内容: 日本の国民にウクライナの文化を紹介する事業。

・ ワールド・コラボ・フェスタ 10 月 27 日に参加。

事業内容: 日本の国民にウクライナの文化を紹介する事業。

・ クリスマス会事業

事業内容: ウクライナ文化に興味がある日本市民やウクライナスクールの生徒たちにクリスマスの伝統や歌や特産品などを紹介する事業。

その他のチャリティーイベント、国際イベントに参加しウクライナ文化や伝統など紹介する事業

ウクライナ避難民の日本語教室、日本文化やマナー紹介、労度支援、全体的なサポートできる事業

活動終了報告書（要約）

今回実施した活動の概要）＊ 400 字以内

戦争の影響により、既に 3 年以上にわたりウクライナでは困難な状況が続いております。そのため、一部のウクライナ人はやむを得ず日本へ避難してまいりました。東海地域において、当団体は避難民およびそのご家族を支援し、安心かつ安定した生活環境を整えることに努めております。

特に、子どもたちはこのような状況下で最も大きな影響を受けております。そのため、当団体は子どもたちの心身の健やかな成長を目的として、日曜学校「ベレヒーニャ」に通う児童を対象に、過去 3 年にわたり夏季キャンプを実施してまいりました。このキャンプでは、子どもたちが交流を深め、新しい友人を見つける機会を得ることができます。

本年度の夏季キャンプは、東海地域に近い福井県および滋賀県において開催することといたしました。

2025 年 8 月 2 日（土曜日）名古屋駅から 2 台車で出発しました。2 時間後福井立恐竜博物館に地きました。見学の後ご飯食べて奥琵琶湖キャンプ場に向かいました。滋賀県の琵琶湖の前でした。移動中車の中、子供たちゲームしながらたくさんおしゃべりしました。あと先生たちから地域のことたくさん聞いた。コテージに着いたら、琵琶湖の散歩出かけました。子供達晩御飯の後メモリノートを書きました。

8 月 3 日（日曜日）朝の体操。朝ご飯とって、海行くの準備しました。上の子たち年下のお友達にもサポートしました。福井県長井浜海水場に出かけました。海の遊びが一番好きでした。日本海の海がとても綺麗です。お昼まで海の遊びして、沢山泳いで、スイカ割もできました。

晩御飯も一緒に食べて食べます。夕方は子供と遊び、メモ帳を書いてかた、寝る準備します。

8 月 4 日（月曜日）朝の体操。朝ご飯とって、観光地のレインボーラインに出かけました。たくさん歩いてお話しできると子供達コミュニケーションをとりました、良いメモリも作りました。16 時ごろ名古屋に戻りました。

成果 ＊ 400 字以内

今回のキャンプ後、子どもたちの表情や気持ちが大きく明るくなったことが確認されました。保護者の皆様からも深い感謝のお言葉をいただき、帰宅後の子どもたちが大変満足し、多くの感動や喜びを語っていたとの報告を受けております。

また、子どもたちは互いに積極的に交流するようになり、母語を思い出しながら使う機会も増えました。さらに、日本の文化的伝統に触れるとともに、地理や地域についても学ぶことができ、貴重な経験となりました。

＊ 記載者へのお願い：本概での記述は本紙一枚に収めるようにして下さい（全体で 1100 字以内程）。

戦争の影響により日本へ避難したウクライナ人とその家族、とりわけ子どもたちの健やかな成長を支援することは、当団体の重要な役割の一つです。そのため、毎年実施している夏季キャンプを本年度も企画・開催いたしました。

今回名古屋を出発点とし、福井県立恐竜博物館、滋賀県奥琵琶湖キャンプ場、福井県長井浜海水浴場、三方五湖レインボーラインを巡りました。初日は恐竜博物館を見学後、奥琵琶湖キャンプ場に移動し、琵琶湖周辺の散策や交流活動を行いました。2 日目は朝の体操から始まり、子どもたちは年長者が年少者を支えながら協力して準備を進め、長井浜海水浴場で遊泳やスイカ割りを楽しみました。夕食作りや日記記録などを通じて、主体性や協調性を育みました。最終日はレインボーラインを散策し、自然を体感しながら会話を深め、仲間との思い出を共有しました。活動を通じ、子どもたちは安心して自己を表現し、友人関係を築く貴重な機会を得ました。保護者からも「帰宅後に子どもが満足げに体験を語っていた」と感謝の声が寄せられ、参加児童の心身に良い変化が見られました。特に、母語を思い出しながら使う場面が増えたこと、日本の自然や地域文化を直接体験できたことは、子どもたちにとって大きな学びとなりました。

今回のキャンプは、避難生活の中で不足しがちな安心感やつながりを補い、子どもたちが互いを支え合い、協調性や責任感を育む実践の場となりました。今後も当団体は、教育・文化活動を通じて子どもたちとその家族の心の支えとなり、日本社会との架け橋として活動を続けてまいります。